32
Feeling like a small trip

時を超えた舞台を、観る。

華やかな装いに、歌あり、踊りあり、物語あり。入植者たちの当時の最たる楽しみは歌舞伎だった。新琴似と篠路には農村歌舞伎の歴史があり、それは今に受け継がれている。

地域で立ち上げ、中学生たちへ継がれる 新琴似歌舞伎

明治30年（1897）、新琴似神社に奉納された芝居に始まった新琴似歌舞伎。鳥取県から入植した田中松次郎を座長に新琴似兵村の若者たちが役者となり公演を続け、花道のある本格的な劇場「若松館」も開設、大いに人気を博した。しかし時代の流れとともに大正5年（1916）に閉館、幕引きを迎えた。この歴史が1993年、「新琴似歌舞伎伝承会」の発足により復活した。町内会などの地域住民と演劇の心得がある教師が一丸となり「白浪五人男」などの演目を披露するまでに。昨今では映像配信も行い、地域文化を積極的に発信中だ。また、新琴似中学校と講座を重ね、共に舞台に立つ伝承活動も続けている。復活公演の反響の大きさ、忘れ去られそうな歴史に火を灯せたことが活動の原動力になっていると、事務局長の宮崎義晴さんは話した。

新琴似歌舞伎の跡地
新琴似7条1丁目 B-3/43

伝統を引き継ぐ郷土芸能 篠路歌舞伎

出身地の山形県で歌舞伎に親しみ、独学で歌舞伎を極めた大沼三四郎が座長となり、本格的な舞台を目指し発展した篠路歌舞伎。1934年まで続いた歴史は、1986年に「篠路歌舞伎保存会」が立ち上がり、篠路中央保育園の園児たちによる「篠路子ども歌舞伎」として引き継がれ、30年以上も演じられている。最近の活動では、地域文化を支援している会員を中心に、400年以上の歴史がある日本独自の伝統芸能への理解を深めてもらうため、情報発信や学習教本の作成も行っている。篠路という地域、住んでいる人たちに誇りを持ってもらい、素晴らしい地域文化を内外に伝えていきたいと、会長の大高英男さん。今後の目標は、篠路歌舞伎をより盛り上げるため、自身も含め地域住民からなる会員たちで公演を行うことだと夢を語った。

篠路烈々布郷土資料館
百合が原11丁目 篠路烈々布会館内 E-3/70

篠路歌舞伎発祥の地
百合が原9丁目 D-3/69

篠路コミュニティセンター内 篠路歌舞伎の展示
篠路3条8丁目 D-3/68

33
Feeling like a small trip

縁起物！篠路獅子舞。

毎年9月8日の篠路神社秋祭りに登場する「篠路獅子舞」。全長6メートルもある大きな獅子を8人の大人が操り、「獅子取り」と呼ばれる子どもが先導しながら舞い踊る。発祥は、篠路烈々布に入植した富山県人だと伝えられている。獅子取りは小学6年生になるまで同じ子どもが務める。

篠路獅子舞 E-3/72
篠路4条7丁目 篠路神社境内

35
Feeling like a small trip

祭りの熱を感じる。

YOSAKOIソーラン祭りで連続4回の大賞受賞を誇る「新琴似天舞龍神」をはじめ「北海道大学"縁"」といった多くの大学生、高校生チームなど有名チームがいっぱいの北区。そして、2日間の演舞に延べ3万人もの観客を動員する人気会場「新琴似会場」も北区に。町内会、商店街などからなる実行委員会を中心に、地元住民による手づくりの会場は市内屈指のマンモスパレード会場に。祭りの季節にはまちが一層輝きを増す。

YOSAKOIソーラン祭り 新琴似会場　新琴似6・7条6丁目

34
Feeling like a small trip

地域チャンネルを視聴する。

住民の心の支えとなっている文化活動や団体活動の火が消えないように。また企業や店舗などを応援するために。地域の魅力やさまざまな活動を発信し、情報共有ができる住民主役の"配信版コミュニティ放送局"が必要だと考え、地元の有志により誕生した「しんことにテレビ」。歴史ある郷土芸能「新琴似歌舞伎」、「新琴似太鼓」の活動紹介、地域のおすすめスポット、グルメ紹介など、コンセプトの"流星群"のようにキラリと輝く星々のような人たちが登場しているチャンネルだ。

36
Feeling like a small trip

馬たちが遺したもの。

篠路、拓北、屯田、そして新琴似に新川と、区内には数多くの馬の碑が建てられている。入植者たちと共に田畑を耕した馬たちは、その強大な力無くしては開発を進められない存在であり、家族のように大切にされていた。さらに馬たちは、走ることで人々に楽しみも与えてくれた。自慢の馬を集めて走り比べをする草競馬は、閑散期の数少ない娯楽だった。こうした流れの中、篠路は馬産地として発展していく。大正時代に原産地フランスからサラブレッドの倍ほども体重があり、屈強なペルシュロン種のアニー号を買い入れた。この馬の輸入により、石狩ペル、篠路ペルと呼ばれたペルシュロン種の一級馬産地になった。こうした馬たちの活躍を称え、感謝を込めた供養として建てられた馬の碑がその歴史を伝えている。

▲ペルシュロン種のアニー号をはじめ名馬5頭を合祀する碑。

篠路神社の馬魂碑 E-3/74　篠路4条7丁目 篠路神社境内

▲各農家に建てられた愛馬の碑を一つにした農耕馬供養の碑。

新琴似の馬魂碑 B-3/36　新琴似8条3丁目 新琴似神社境内

◀動物やペットの守り神とされ、毎年10月17日は例祭日。

馬頭大神（ばとうおおかみ） A-3/27
新川3条13丁目 新川皇大神社境内